

二ユ一人才 60 号

14 支部 明
7、浜井 橫浅
1964.7.5 H.C. 撰

第 94 回 支 部 山 行

夏山合宿（燕岳・槍ヶ岳）

8月1日～4日（3泊4日）

ユ一人

新宿→松本→有明→中房温泉→合戰

小屋→燕山荘附近露營（燕岳往復）

→大天井岳→西岳→水俣乗越→槍岳

肩轍苔（槍ヶ岳往復）→槍沢小屋→

槍尾→上高地→松本→新宿（予備日

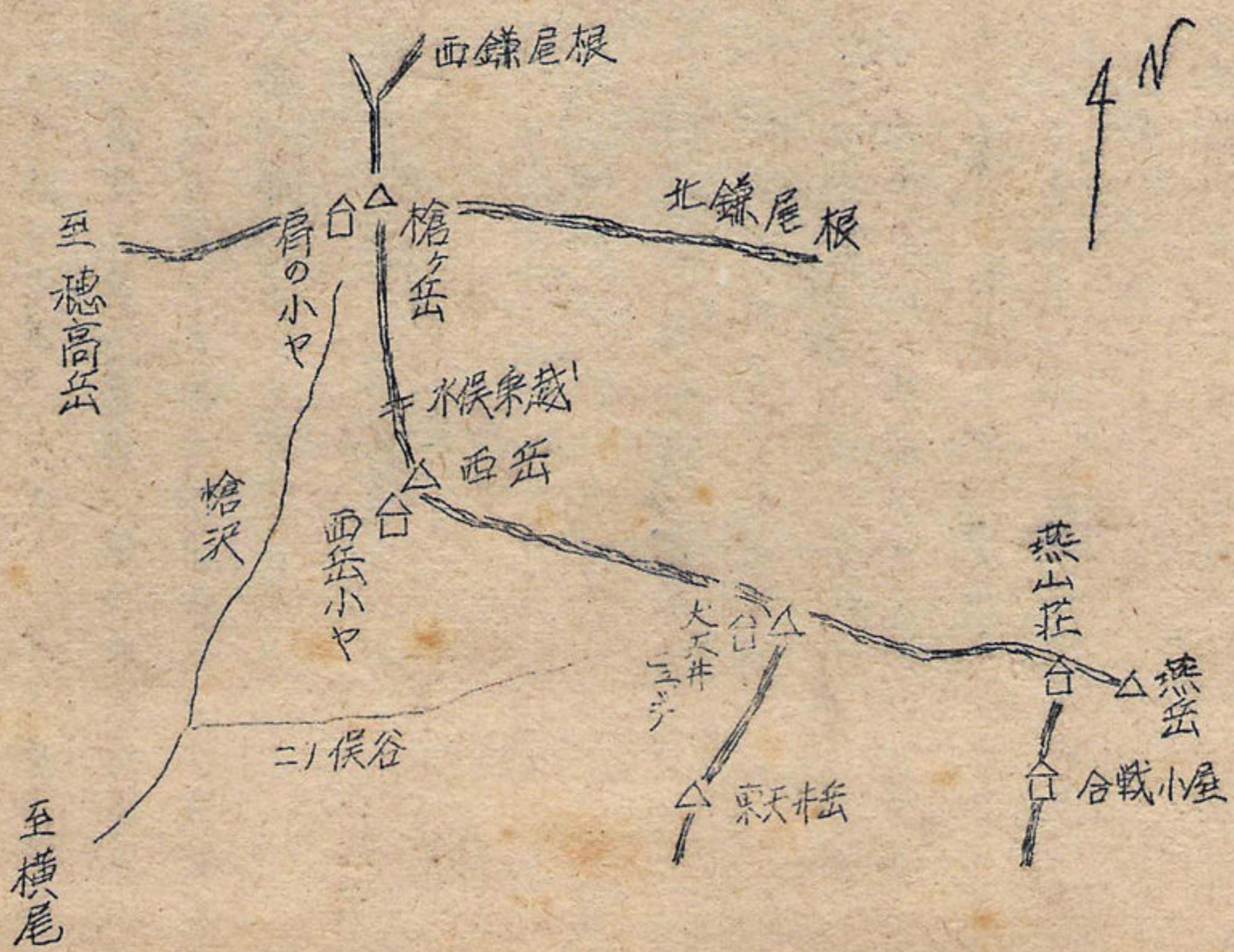
一日）

係 小川龍利（巷北区青砥町 609）

費用 3500 円

打合せ 7月16日 18時

横浜駅西口伝云坂附近集合



燕岳（）槍ヶ岳のコースは俗に表銀座と云

費用 約500円

われて いる北アルプスのボビュラートで
槍ヶ岳を目指す人はまちこのコースを歩くと
云われております。

槍ヶ岳は標高三一八〇M、高さに於ては奥
穂に劣るが、穂先を天に向かってそびえる姿
は北アルプスの盟主と云われるのにふさわし
い。

第95回 支部山行

水無川本谷（薪林苑）

8月23日（朝立日帰り）

第91回 支部山行

伊豆旧天城越え

5月31日～6月1日

山行報告

コース、横浜—袋沢—大倉（鶴）—
水無川本谷—塔ヶ岳—モミゾ沢
—大倉—袋沢—横浜

係 熊谷幹夫（港北区大豆戸町乙ノケ）

東芝菊名寮（棟）

打合也 8月18日（火）18時30分 小町
久しぶりで丹沢の沢へ入ります。天幕持参
ひ、前夜大倉で幕営、翌日水無川本谷へ入り、
塔ヶ岳登頂、大倉尾根からモミゾ沢を下り、
大倉へ帰つてくる予定です。

メンバー：斎藤 清、小川龍利、佐藤 浩
ユースタイム 横浜へ一〇・五四、熱海へ一二
三〇、二二、三九、一河津へ一三、四九、一河津河
へ一三、五五、一四、三〇、ヒラン入口へ一五、二〇
天城莊へ一五、三〇

天城莊へ九、一〇、一沼の川橋へ九、五〇、一黄金

第 92 回 支部山行報告

(更)

尾瀬ヶ原、縱断ハ会津駒ヶ岳は都合により変

参加者ハ係木野邦保、中山一重、佐次和子

ハヤ木田美智子、上村範子、久保

寺田代他二名

コースタイム 大清水ハ四二〇、三平峠ヘヒ

〇〇一七三〇) 尾瀬沼ヘ九三五、沼尻ヘ九五〇

一〇〇〇) 下田代十字路ヘ一五五〇一三〇〇)

山の鼻小屋ヘ一五〇五)

ロッジヘ八〇〇) 鳩待峠ヘルミ五九五〇)

小至仏中途ヘ一〇二〇一、五五) 鳩待峠ヘ一三

〇〇一三、四五) 戸倉ヘ一四二五、一五〇〇)

一日目、沼田駅はまたたくうちに長蛇の列、

我々はそれを尾目に一台目のバスにのりこむ。

夜行列車の寝不足で座ると同時にコツクリ、

コツクリ始める。大清水は真新い小屋が建ち並び、真壁の様に照し出されていも。右下の道は日光方面、沼へは左のならそれも道をゆく。橋もかけかえられ自動車も充分入れる。三平橋までは手入され、つり橋はもうゆら詫念撮影用、いよいよ山道にかかる。しばらくはよいが道を曲るにつれて沼道と更り五平峠にいたってはおすること化す。沼への下りも又しかり。カエルの合唱ごときコトラスを奏で船上の人となる。燧岳はもやも見えない。沼尻小屋は渡船場と化し人盛況。森の中の白砂峠をのっこし起伏の少ない道をゆく。やがてゆるやかな下りとなり、展望の原が広々と開ける。遙をあおぎ至仏を眺めて昼食をとる。中央の木道を正面に残雪の至仏を行く。沼畔や十字路の人々はどこへやら人影のない静かな昼下りである。沼尻

橋へ一〇・一五・一・四〇) 昼食へ一・一・三・〇・〇 さんはふつとんびゆく。夜は三人でアトル

一・二・〇・〇) 旧天城峠へ一・二・一・五) 天城トンネル あるので承きに行く。何年ぶりに承ぐりをう

入口へ一・三・二・五・一・三・二・八) 三島へ一・五・二・〇・〇 まく泳げない。あまりやると散れるのでひり

一・五・三・七) 横浜へ一・七・三・五

一日目、横浜をのんびりと出る。車中は大分混雑していた。それでも途中大分降り小田原ではほとんど降りた。熱海で乗り換え伊豆急下田行に乗る。熱海より下田まで直通が出来る。熱海から伊東まで普通で伊東から快速出る。熱海から伊東まで普通で伊東から快速出る。車内は明るくかんじがよい。伊東より車内にハワイアン音樂が流れ、外の綠色ながめながら音樂をきくと南国へきたようだ。河津で降り、駅前の道を河津浜まで歩く。河津浜で修善寺行きのバスたのり途中でパンタをしたので修理する。三十分くらいでなおりを過ぎて庵入口でバスを降りるとすぐ下が大滝温泉だ。旅館に着いてまでは一風呂とされか

かげんせやめて部屋へもどる。

二日目朝起きたのは七時半でまだ食事の仕度ができてないようだ。それではと三人で朝食ときた。食事がすんだのは八時半だ。それからうすぐ仕度をしと旅館を出たのは九時過ぎだ。沼の川橋のところを遊がりかね、夜へ行くとじ庵へ行く。今日は左の道へ行く。黄金橋で十時過ぎ。これから長丸岬までは大分のことにして坂の入檜路へ行く。旧天城峠からは道もよくい、天城峠へ歩き出す。この道は天城トンネルを通、こじらりとトンネルの上からトンネルの入口へ下る。入口から、丁度来た沼津行きバスにのり三島へである。

「しだし」原稿募集中

川を渡ると童宮小屋へ着く。柔らか木縁に包まれレンゲツツジが一きわ赤く映える。池塘に影を写し、凡になびく浮島をながめ力メテのシャツタードを切る。

東電小屋への道を右手にみながらお進む。次第に原の中がせばまり牛首を通して山の鼻田代へ辿り着く。今晚の宿波尾瀬はツジに頼む。

〆切 ク月未日

提出先 小川龍利

港北区青砥町

609

二日目、空を仰ぐ。至仏山頂はガスがかかリはつきりしない天気だ。至仏山をあそらめ、横目でにうみながら樹間の道を辿る。

心配した程のぬかるみもなく鷲狩峠につく。

時間が余るので小至仏往復を計る。登るに従つてぬかるみがひどく息暗しのよい所があきらめる。鷲狩山荘の下に高瀬平がそびえ左手遙か下に稟がりぞまれる。鷲狩峠から戸倉まではタクシーをとほし下界の人となる。

7月にお誕生日を迎える人 行事予定

平野洋子、熊谷幹夫

おめでとうございます

行事報告

6月9日 例会 出席者11名 婦人会館

6月16日 井の頭山行打合せ

6月24日 準例会 出席者4名 小町

6月21・22日 井の頭山行 参加者8名 尾瀬ヶ原

6月30日 委員会 出席者6名 小町

定例集会

準例会

8月11日(火)

9月22日(水)

婦人会館にて

小町さんごにて

18時より

19時より

7月14日 例会 婦人会館 18時

7月16日 井の頭山行打合せ
横浜駅西口松云坂附近 11時

7月19日 井の頭山行

7月22日 準例会 19時 小町

8月1日 1番日 井の頭山行

NEWS

昭和39年8月11日 発行
SHC 横浜支部(港北区青砥町
編集向山昭 609 小川)

第96回 支部山行

お月見山行

箱根

明神・明星岳

9月20日 会員登録

コース

横浜——小田原——大雄山 ——

道子尊——金明水——明神岳 ——

明星岳 (徒步約4時間)

係

小川龍利

横浜市港北区青砥町 609

費用

約 600 円

打合せ

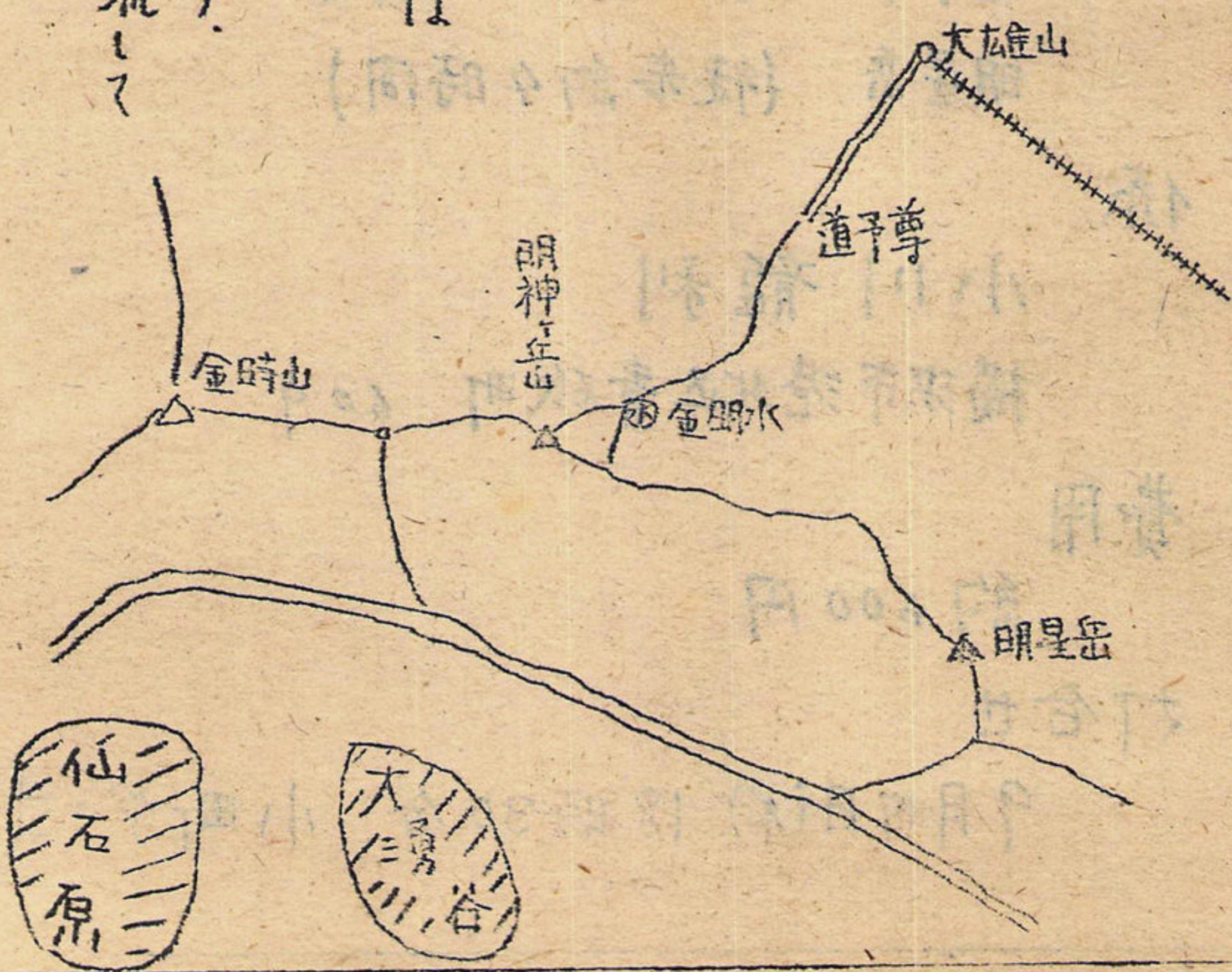
9月17日(木) 18時30分 小田原

このコトスは3月の山行予定地でした。が中止になってしまったので、今度は月を眺めながら歩こうと思います。

明神ヶ岳は箱根外輪山中、第2位の高度二六九米を保ち、茅葺戸に埋められた円頂^{えんてう}柔らかい草肌^{くさは}眼をさえぎる何物もなない尾根路^{びねじ}ワニダリングに最も最適であろう。

明星ヶ岳の強羅側に「大」の大文字が切り開いてあり毎年八月十六日夜は部落の青年が大文字を焚く。

帰りはその時の都合で決めましょう。そして林慶の温泉で一浴して汗を流してくるのも良いでしょう。



第93回 支部山行報告

ミニソン沢(7月19日)

参加者(一) 小川龍利

(P) 水野邦保 金子八工子

佐次和子 高山美鶴子

熊谷幹夫

コースタイム

大倉(九・三) モミソン出合(二・五。)

二・五風食(一・三。) (一・二・〇)

稜線(一・三・二) 大倉(一・四・四。)

バスに乗る。月も出てきて窓ガラスに 積などりに
まきかけてくる。

終点附近の休憩所に遊び込んで ひと休み、一時間
ほどねばつて、これでは駄目だから帰ろうと決めた
ところ 空が明るくなり 雨もあさまつたので出発
に求めむ。

林道を行くと、この雨模様なのにぞろく、僕か
ら遠ざくる。

新葉の沢の予定でいたが、少し時間がなく、又雨
に降られたら一晝早く帰れる様にと モミソン沢に入る。
出合附道は、相当天幕も張つてあり 人もいるのに
が沢の中へ入るとあまりバーでーーに会わない。
この沢はせまく、両側の真木のために陽の出ている
日でも暗かつたのに、近頃はその木々も切りおされ
ずいぶん明るくなってしまった。

途中大樹を避けばこれといつてもすかしい柵はなく
のんびり登つても二時間位で岳山へ出られる。
最後の草付が雨のために滑りやすく 草につかまり
ながら、夕々はげしく降ってきた。
えながら、小田急に乗りか
えてから、少々はげしく降ってきた。
一心、大倉まで行って、駄目なら帰るとし、

消息

久保田・黒木両氏の新住所をお知らせ
致します。

黒木文夫 横浜市南区井ヶ谷町
一七三、佐藤方

久保田治・国榮

横浜市西区東丘六八

行事報告
7月14日 定例集会 出席者15名 婦人会館
16日 93・94回山行打合せ
19日 93回山行 ボッカ訓練 参加者6名
22日 委員会 出席者4名 小町
翠例会 出席者0名 小町
29日～8月4日

94回支部山行 劍岳

予定

8月11日 定例集会 18時 婦人会館

18日 95回山行打合せ 18時30分 小町

23日 95回山行 水無川本流

9月8日 定例集会 18時 婦人会館

定例集会

9月8日(火)
婦人会館にて
18時より

準例会

8月26日(水)
小町だんごにて
19時より

後記

いつもながらの読みにく二字を披露しなけ
ればならない二つうち二回

NEWS

No.62

62号
昭和39年9月8日
SHC 横浜支部(港北区青砥町
編集向山昭
609小明)

第97回 支部山行

清津峡

10月11日 前夜残、夜行日帰

コース

上野—石打—十二峰—小出鉱泉—大崩れ—
足尾沢—高石の吊橋—八木沢^{越後湯沢}—上野

徒步 約8時間半 地図 越後湯沢

~~中止~~ (10月の予定)

小川 龍利

横浜市港北区青砥町 609

費用

約1200円

打合せ 10月8日(木)
18時9分 小川

定例集会

10月13日(火)

婦人会館にて

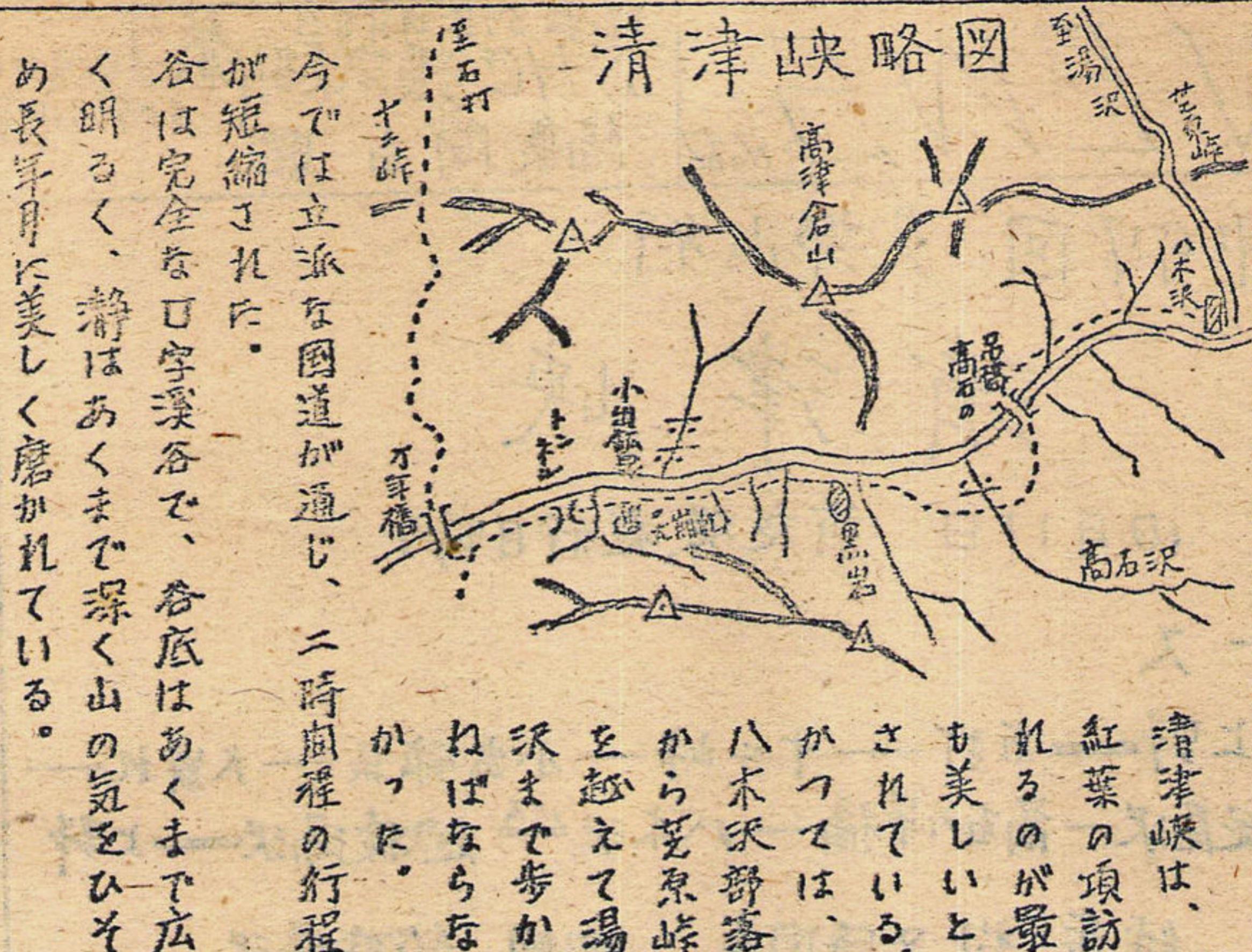
18時より

準例会

9月23日(水)

小田だんごにて

19時より



清津峠は、紅葉の頃訪れるのが最も美しいとされていり、かつては、八木沢部落から芝原峠を越えて湯沢まで歩かねばならなかつた。今では立派な国道が通じ、二時間程の行程が短縮された。

谷は完全なV字渓谷で、谷底はあくまで広く明るく、静はあくまで深く山の氣をひそめ長年月に美しく磨かれている。

清津峠は、紅葉の頃訪れるのが最も美しいとされていり、九月末日といひます。

口元 98回 山行のお知らせ
第98回 支部山行は左記のコースで行われますか、小屋泊りで特に連休に当るため、予約も早目にする必要があり、申込み〆切

山行日

十一月一・二・三日

コース

一、豊科一須砂土一常念小屋
二、常念一螺旋丘山一大滝小屋
三、大滝小屋一上高地一松本

係

小川 龍利

横浜市港北区青砥町六。九

メ切

九月末日

新ハイキングを購入して下さい。

先日、代表者宅へ本部より支部会員でまだ入会していない方、会費切れの方のために、横浜支部にて雑誌「新ハイキング」

を購入していただきよう支部会員に進めて下さい、という手紙と「新ハイキング」八月号、十冊が送られてきました。

支部会員の中でもまだ本部に入会していない方、会費切れの方は是非入会して下さい。

会費は半年分五三〇円、一ヶ月一分〇〇〇円で支部委員に申し出て下さればお取次致します。万一御入会なさる無い場合は一ヶ月四でお分け致しますからお買求め下さい。

支部会員の方々の御協力をお願い致します。また会員外の方々にも入会をどしどくお進めになつて下さい。

木々貿易会社より

木々貿易会社より

本部より要請のあつた本部役員としまして、著合正次氏を適任者と認め選出致しました。この本部役員とは本部に於て行ういろいの行事の係となり、また本部と支部との連絡をより密接にするために設けられたいるもののです。

二例会のあり方

マンキリ会の傾向にある現在の例会を、より楽しくするためににはどうしたらよいか種々検討致しましたが良い意見が出ました。せんでもしたので、皆様の御意見をドンド

ラお寄せ下さい。

委員会で出した意見としては

①山行地をバラエティーのあるものとし、多くの人が参加するようにする。

④例会に於て出席者が發言もやすいようた
氣をくばる。

⑤新人を親切に指導し会の雰囲気は早く整
れてもらう。

以上の他二、三の意見がありました。

「しだ」の原稿募集

九月に発行の予定でいた「しだ」号は原稿の
集まりが悪く発行は十一月頃になります。
紀行文、その他なんでも結構ですかから集ま
でお寄り下さい。

行事予定

9月8日 例会 婦人会館 18時

19日 96回山行打合せ 18時30分 小町

20日 96回支部山行 明神明星ヶ岳
23日 準例会 19時 小町

10月11日 97回支部山行 清津峡

声戸「仁人山行計画」の復活を!!
いつのまにか立ち消えとなってしまった
声戸及び仁人山行計画の欄を再び設けたい
と思いますので係まで原稿又は予定を提
出して下さい。ニュースの充実にもなり
ますので御協力をお願ひ致します。

九月にお誕生日を迎える人
渡辺美智子

おめでとうござります

行事報告

8月11日 例会 出席者10名 鄧人会館

18日 95回山行打合せ 小町

23日 95回山行 水無川本流

26日 準例会 出席者2名 小町

委員会 出席者8名 小町

(X) 五

第98回 支部山行

常念山脈縦走

11月1日(月)3日(三泊三日)両夜行

コース 豊科＝須砂土 — 常念小屋(泊)
 — 常念岳 — 蝶ヶ岳 — 大滝小屋(泊) — 大滝山往復 — 上高地
 地図 松本

槍ヶ岳から穂高岳への稜線は岳人にとつて
 は一度は歩いてみたい縦走路でしょう。今回
 の常念山脈はその槍ヶ岳 穂高への岩稜のまた
 とない展望台です。

新雪と紅葉がまぎり、三段ごめ位の景色が
 見られるかもしません。大いに期待してよ
 いでしよう。

係 打合せ

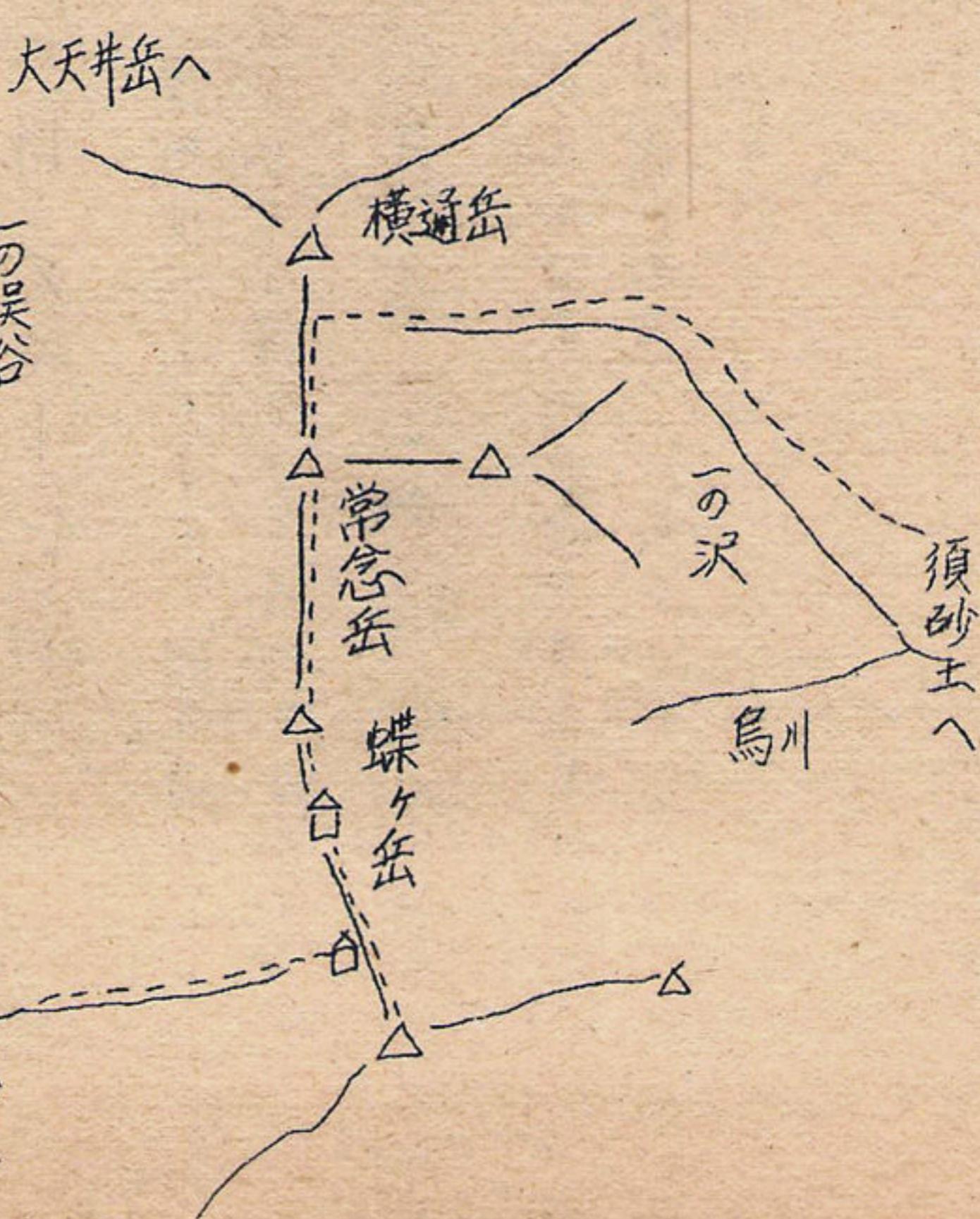
費用

約三五〇〇円

小川龍利

10月15日 18時

横浜駅西口伝云板付近にて待合せ



中 99 回 支 部 山 行

一月 予 番 月 送 重 上 三 二
山 行 予 定 地

十 国 峠

11月 15日 (朝出発日帰リ)

一月 丹沢大山初詣で

コトス 熱海 || 十国峠

新年初山行は大山詣り、今年の安全祈願でもやりましょう。

二月 スキー合宿

場所は未定ですが、例年通り乙ノ泊ひ
白雪の上を滑りまくるつあります。

係 黒木文夫

南足井土ヶ谷上町 173 佐藤方

三月 湯河原附近の山

打合せ 11月 12日 (木) 18時30分
たまには東海道線方面もよいでしょう。陽
春の日をあびてのんびり歩ける所へゆくつも
リです。

百回山行のわ知らせ

十二月の忘年山行は支部山行百回記念とし

て一泊で伊豆大瀧温泉へ行く予定です。記念の山行ですが、ご多忙の方の参加を望みます。

雑誌「新ハイキング」購読に

ついて

八月号から毎月10冊づつ、私のところへ新ハイキングが送られてきます。これは会費切れの方や未加入の方の年間読者へ新ハイ正会員)をつくるために送られてくるのです。

おめでとうございます

十月にお誕生^日を迎える方

小川竜利、落合正次、金子忠好、水野那保、溝田洋子

御協力を頼ります。(小川竜利)

レの原稿募集集

当支部では、会報「レ」15号を近々発

行の予定ですが、原稿の集まりがよくあります。せん。会員は一人必ず一編出して下さり。

詩、俳句、紀行、その他なんでもけつこうで

す。

行事報告

9月8日	例会 婦人会館 出席者 16名
17日	96回山行打合也 横浜
20日	96回支部山行へお月見山行
	明星、明神ヶ岳
23日	準例会 小町 出席者 4名
27日	委員会 小町 出席者 8名
10月8日	オ97回山行打合也 小町 18時30分
10月11日	オ97回山行青津峠
10月13日	例会 婦人会館
10月15日	オ98回支部山行打合也
10月28日	準例会 小町 19時
11月15日	オ98回支部山行

行事予定

10月8日	オ97回山行打合也 小町 18時30分
10月11日	オ97回山行青津峠
10月13日	例会 婦人会館
10月15日	オ98回支部山行打合也
10月28日	準例会 小町 19時
11月15日	オ98回支部山行

定期集会

11月9日(金)

10月28日(水)

婦人会館

小町

18時より

19時より

御注意あれ

会場の都合で11月はオ一二月曜
日に例会が開かれます。全員
出席下さい。

NEWS

昭和39年11月9日 航行
 SHC 横浜支部(港北区青砥町
 609小川方)
 編集 向山 昭

オ100回 支部山行

忘年山行・支部山行百回記念

伊豆。大滝温泉

12月5日～6日 (1泊2日)

コース

① 横浜—伊東—河津渓~~バス~~七滝入口(大滝温泉)

② 七滝見物—旧天城峠—天城トンネル~~バス~~

修善寺—横浜

申込み〆切 11月20日

小川龍利 横浜市港北区青砥町 609

費用

約2500円

今年の忘年山行は オー回支部山行・昭和32年3月の丹沢主脈縦走から数えて百回目を迎えました。この記念すべき山行に皆さん奮って参加致しましょう。

なお、上記百回の山行のほか 昭和35年から昭和37年までの3年間に丹沢シリーズとして丹沢の沢へ 23回の山行を行っています。

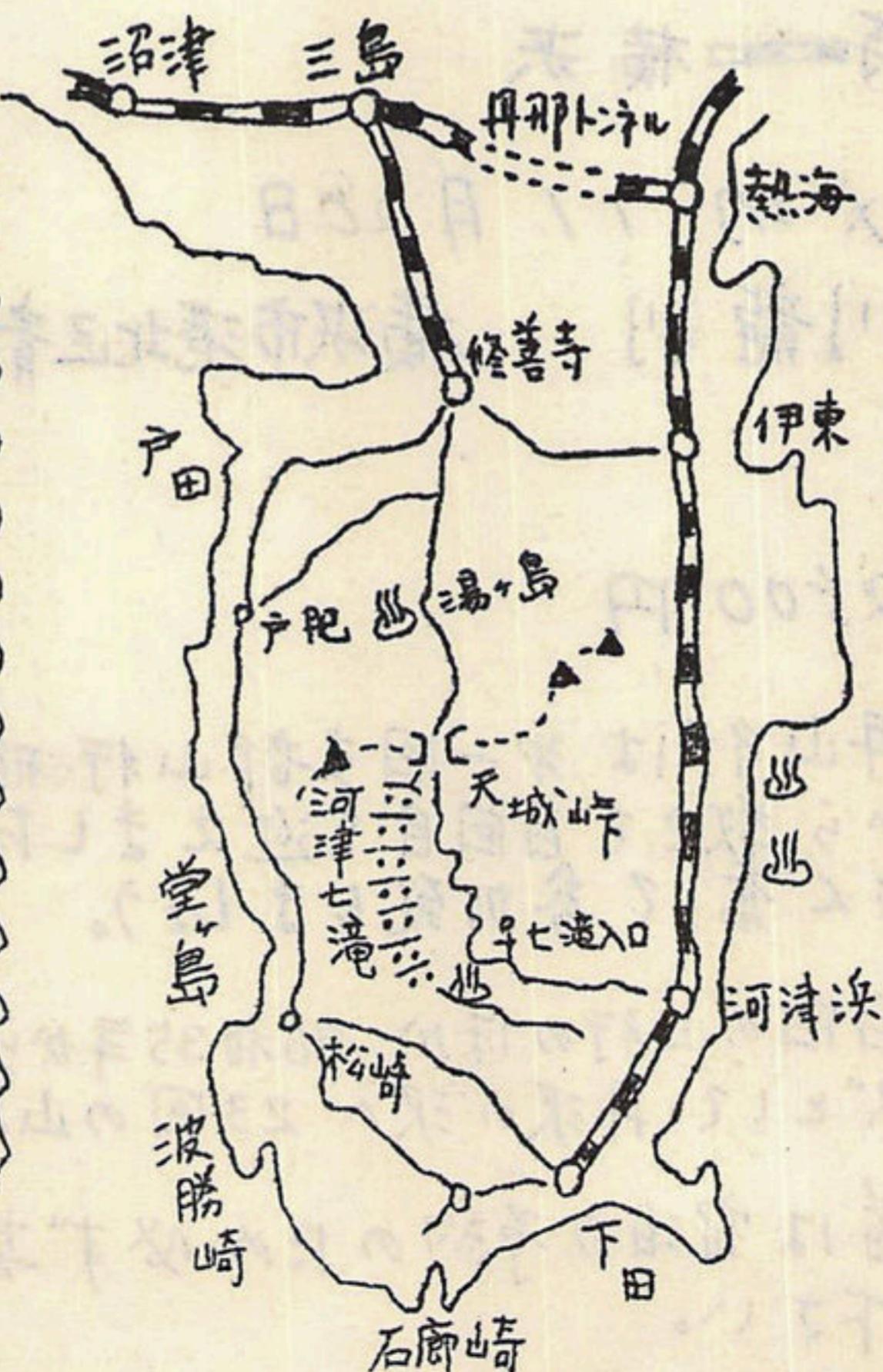
参加希望者は宿泊の予約のため必ず期日までに係まで申し込んで下さい。

大竜温泉は河津駅からバスで約30分、山の中の温泉です。この大竜温泉に一軒の天城荘は一般旅館の他、ユースホステル、国民宿舎も経営しており相当大きな旅館です。大竜直下には奥行き約20米の玄武岩の洞窟があり、こゝに温泉が湧き出でおり、穴の湯として有名です。このほか、野天風呂が到る所にあり、噴泉、温泉プール、養鰐場などもあります。

伊豆最大と云われる河津七滝は大竜温泉より上流2キロの間にあり、天城の伝説を秘めて神秘、雄大、豪莊です。大滝は高さ30メートル、出合滝。穴滝は大竜上沼の川との出合にあり、蝦滝、見附滝、初景滝とつづき最奥の釜滝は玄武岩にかこまれ

その上から、滝壺深く落下する神秘な滝。家族連れでも十分に探賞できるコースです。

オ99回 支部山行
十
国
峠
11月15日(朝出発・日帰り)
打合せ 11月12日(木) 18時30分 小町



新年会について

。未女貢会だより

今年も余すところあと一月半、来年一月
例会は例年のごとく新年会となります。
今までの新年会は余りおもしろくない、と
いう意見がありますので今度の新年会は趣
向を変えてゲームや歌を取り上げ楽しいも
のとしたいと思います。

皆様の御希望、あるいは楽しいプランな
どがありましたら、例会、その他の機会に
どしどく委員の方へお寄せ下さい。お待ち
していきます。自分達の新年会なのですか
ら遠慮せず、楽しく、有意義な新年会とい
たしましょう。

日時、場所、その他詳細は来月十二月の
ニュースでお知らせいたします。

「しだし」の原稿募集

毎月のニュースで原稿を募集しています
が原稿の集りが非常に悪いためしだしを発行
できません。皆様の御協力を頼り致しま
す。

十一月の委員会では上記新年会のあり方
について討論を行い、結論として皆が樂し
い新年会とするため最善の努力を払う、そ
のために従来女性に評判の悪かったアルコ
ール類の禁止も検討することになった。

また会員全員に往復ハガキで配達した支
部再編成の件について意見を出し合い、今
までの幽れい会員を整理し、支部に対しても
熱意を示してくれた人々で横浜支部を運営
してゆくことを再確認した。

会計報告

39年4月~39年10月

[収入]

前月 緑越	4,044
支部会費	10,100
テント貸出料	600
臨時収入	100
	<u>14,844</u>

[支出]

テント代	一部返済	4,000
信場婚紙	費	1,140
通会結原	費	2,670
	(3名)	1,500
	祝料	1,000
		<u>10,310</u>

残高 4,534.-

定例集会

12月8日(火)婦人会館より

準例会

11月25日(水)小町より

(会計係)

上記の通り相違ありません。

行事予定

11月15日	第99回山行	十国峠
11月25日	準例会	小町 19時
		18時30分 小町

×七

行事報告

10月13日	例会	婦人会館	出席者12名
10月15日	第98回支部山行	打合せ	
10月27日	委員会	小町	出席者6名
10月28日	準例会	小町	
11月15日	第98回支部山行		

にゆうす 65号

昭和39年12月8日発行
横浜支部(港北区青砥町609小洲方)
SHC 編集 淡井俊明

オーラ一回支部山行

新年山行

新年会のおしらせ

1月24日(火)18時より

婦人会館にて

申込、〆切り 1月5日

あて先 中区伊勢佐木町

2-45

中山一重

tel (68) 0353

1月24日(日帰り)

丹沢表尾根縦走

打合せ 1月20日小町にて

新しき年を迎える新年会は以上の要領で行

われます。今日はとくに時間厳守をお願いし
ます。定刻通りに開始致します。又、申込制を
テウンド丹沢を訪れます。新雪の表尾根を、
富士を眺めながら快く歩きましょう。多數御
参加下さい。

新年会で決定する予定です。当日は、おいし
い例会で決定する予定です。当日は、おいし

い食物が必ず沢山ある予定です。会員の皆様、沢にまで足を伸ばしたいと思う。

万障繕り合わせて御出席下さい。

なお、当日プレゼント交換を行いま
すので各自、百円程度の品を御用
意下さい。又会費は五百円以内

であります。

的なザイルワークおよび雪上訓練を行いたい
と思います。このシリーズは主に沢登りのA

Bから始め、安全を第一とし、誰れにでも
気軽に楽しく参加できるよう計画致したい
と思います。

また、時には会の超ベテランを迎えて基本
期待しています。尚、御希望がありましたら
係まで。

丹沢シリーズ

山行予定

一月 新年の丹沢表尾根(これが第一回
支部山行へ前述)となります。

二月 鷹取山 ゲストを迎えて誰れにでも
行き易くなる懸垂下降およびザイ
ルの結び方の訓練

今度は少し趣を変えて、ホームグランドは
丹沢とし、たまには近くの山の比較的容易な

三月 丹沢モミソ沢

四月 丹沢葛葉川

五月 丹沢原次郎沢

六月 残雪の谷川岳沢見物

「レ」の原稿募集中

「レ」の原稿は現在大変集りが悪いので
発行できない状態です。会員の皆様の協力を
お願いします。

個人山行のおしらせ

1月 17日 川苔山

連絡は、中山一重迄

(中伊勢佐木町 2-45)

(68) 0353

他にも個人山行のアランがありましたら
どうぞ発表して下さい。

2月の支部山行

スキー合宿

志賀高原高天ヶ原にて

2泊3日(日程は未定)

詳細は1月号ニュースにて

委員会の報告

11月25日に開かれた委員会では次のことを
話しあつた。

一、10月未に発送した往復ハガキの返事をよ
こさぬ者をどうするか。——未返答者には
さうにもう一度ハガキを出し、意志をたし
かめる。そのさい、返答なきときは会費印
れをもつて退会とみなす。なお先日は、
枚の往復ハガキを発送、戻つてきものは24

本校(うち退会2名)です。

行事予定

二、新年会、新年山行について――前述

三、「じだ」について――前述

四、写真展、スライド展を開くことについて

――開催については賛成。詳細は今後さ

めこゆく。

五、準例会について――一応、現在のままで

1月20日 第101回支部山行打合せ

小町

しばうく様子をみ、いいアイデアがあれば

1月27日 準例会 小町

ほどりこんでゆく。

1月24日 第101回支部山行

小町

12月8日 例会 婦人会館

12月5・6日 第100回支部山行(忘年山行)

伊豆大竈温泉

行事報告

11月9日 例会 婦人会館 出席16名

11月12日 第99回支部山行打合せ

11月15日

荒崎シーサイド

準例会 小町にて 19時より

12月23日(水)

NEWS

No 66

昭和40年1月11日発行
SHC横浜支部(港北区青砥町
編集 向山 昭 609小川方)

用けまして
おめでとう
ございます。

今年も安全な山登りを
心がけ楽しい思い出を
たくさん作りましょう。

SHC 横浜支部
委員一同

オ一二回支部山行

志賀高原

高天原スキー合宿

2月6日～8日(三泊三日)

費用 約四五〇円

申込 小川竜利

横浜市港北区青砥町609

参加御希望の方は早急に申込んで下さい。

丹羽三重一(オニコ)

2月28日(日曜日)

鷹取山ザイルさばきの練習
係 慶谷幹夫

今后の支部の方針

先日の委員会に於て、今后の支部の方針を協議しました。その席の意見として、我々は各自仕事を持ち、その合間に山に行くのであり、会則にある様に、会員相互の親睦をはかるのが目的であるから、軽いハイキングなどで一日を楽しく過せる様な山行を多く取り入れると云う意見と、こういった会に入っている以上誰しもがある程度までは登山技術をのばして行くのが目的だろうから、その様な山行を主体とすべきだ、との意見が出ました。

たしかに、この様な会に入っている以上アルプス登山等は念願の事と思われます。しかし、高い山に登るには体力や技術に、自信がないので行かないと言われる方もいるようです。なにも高い山へ行かなくとも

登山技術は学ぶことは本末ますが今までの足跡を振り返つてみますと、著名な山や高原のハイキング等が喜ばれています様です。

クラブの現状としては、いかにしたら現在の支部山行に多数参加してくれるかが問題です。従つて今までの実績に示のす様、今后は高原ハイク等を主体として進んで行きたいと思います。またこの様な山行ばかりでは、高度の登山を目的とする方はつまりなくなってしまうことと思われますので年には二、三回程度合宿を持ち、技術の進歩を目指してゆきたいと思つております。

ただ委員会に於てこの様な方針を打ち立てた所で、皆様の協力がなければクラブを運営してゆくことはできません。各自、仕事をお持ちで都合もある事でしょうが会の行事には多數参加下さる様お願ひ致します。

今年も四月になりますと、委員の交代が行われます。従つて委員の選出は三月には完了しておかねはなりませんので一月中に往復ハガキを会員全員に配達し、委員の互選を行いたいと思います。

選考方法は会則や九条委員の項の規定により、"委員の選出は選考とし、代表一名、運営委員五名(含女性一名)を選出する。会員は全て選考し、又選出される権利がある。"にのつとつて行われますのでよろしくお願ひ致します。

年に一回の改選ですから、会をより発展させ会員相互の親睦を高める事を目的とす

委員改選の件

代表 小川竜利

定例集会
2月9日(火)
18時より
婦人会館

準例会
1月27日(水)
19時より
小町ダンゴ

。今年もスキー・シーズンだけなれ、ケガのないよう気をつけよう。
。冬山遭難のニュースが多い。実力以上
の山行はつつしめましょう。
。委員の改選が行われます、会は自分達
のものですが、慎重に委嘱を送達致しま
しょう。

。例会の席上では自分の意見をはつきり
と述べましょう。そくすることが例会
を意義あるものとし、活潑のある会と
するのです。

行事予定

1月27日	準例会	18時	婦人会館
1月31日	北陸四支部山行	丹波表尾根	
2月6日~8日	北陸四支部山行	志賀高原	
2月9日	例会	18時	婦人会館
2月24日	準例会	18時	婦人会館
2月28日	第2回丹波三生十石	鷹取山	
12月5・6日	第100回支部山行	忘年山行	
	天城縦走	参加四名	
12月8日	例会	出席者14名	婦人会館
12月23日	委嘱会	出席者7名	
12月24日	準例会	小町	

行事
事報
告

NEWS

昭和40年2月9日 発行
 S.H.C 横浜支部(港北区青砥
 編集向山 昭 町609小川3号)

第二回 丹沢シリーズ

鷹取山

2月 28日(日) 日帰

コース 横浜—追浜^{15k}追浜遊園地^{12k}前浅間
 奥浅間^{0.7k}鷹取山^{0.8k}奥の院^{0.5k}神武寺^{2.0k}
 神武寺駅—横浜

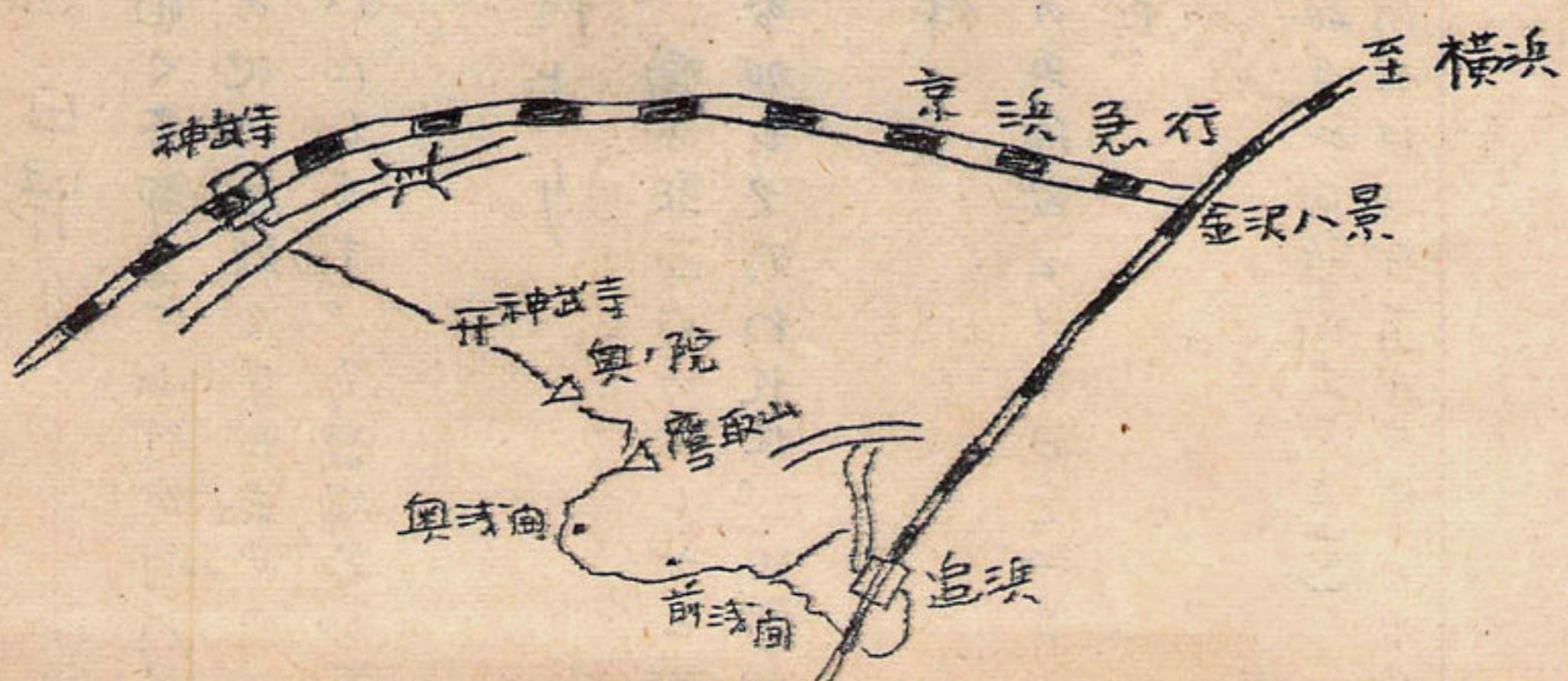
費用 140 円

打合せ 2月 26日(金)

横浜駅西口 カトレヤ三階

18時30分

係 懇意幹夫



鷹取山は一三九米の低山でありますか、湘南妙義といわれる奥浅間、前浅間の岩峯がロッククライミングを楽しめます。

当曰は鷹取山でのんびりとサイルの結び方およひ懸垂下降の練習と梅の花見を兼ねて神武寺までハイキングを行います。ひやかし組、御同伴、子供連れを大歓迎、多數御参加下さい。

委員会により

一月二十八日、横浜駅西口カトレヤ三階にて委員七名が参加して行われた。内容は次の通りです。

一、委員改選の件

委員選挙方法の再確認と×切日を二月十五日と決定した。

二、会則変更の件

3月14日
モミソ沢
打合せ日、その他詳細は3月のニュースに
くお知らせ致します。
なお3月の支部山行を兼ねますので、
ヨリ三回支部山行となります。

本部集中登山のお知らせ

四月四日(日)帰り

今年も例年の如く本部集中山行が行われます。山行地その他の不明ですが三月のニュースで詳細に招引いたします。多數御参加下さい。

沖三回丹沢シリーズ

かし組、御同伴、子供連れを大歓迎、多數御参加下さい。

カミツリ集会毎月二回(準例会を含む)
このうちの準例会は現在有形無実の状態

になつてゐるためこれを廢止してはどうか
という意見が出て討論したが結局一応今の
ままで様子を見てから対策をねることにし
た。
カ三条(2)桜閑誌の発行、部報年二回(三月・九月)
ニュース 毎月
このうち部報年二回の規定につき現在の会
員の人数が二十五名と減少したため原稿の集
まりが悪くなり、今まで通りに年二回は發
行することが不可能となつてきましたため發行
を年一回にしてはどうかという意見が出た
ためこの案を検討した結果委員の意見とし
ては年一回發行に改定すべきであるとの結
論に達した。この案を二月の例会に提案し
ては計画では丹沢表尾根では時間的にきついため
たが打合せで表尾根では時間的にきついため
途中で下山するめになりかねないので最短
距離の水無本谷に変更した。表尾根の駅に降り
ると季節はづれのせいか夏の最盛期に比べ、
うその様に登山者は少く大倉に着くとほとん
どがバカラ尾根に向ひ次に下つたのは我々のパ
ルティーと单独行の者のみであった。私は
願い致します。

支部山行報告

カ一回支部山行兼カ一回丹沢シリーズ

丹沢水無川本谷(一月二十四日)

参加者 態石幹夫(係) 影山元芳 金子忠好

高山美恵子 宮野昌

コースタイム 横浜(六・九)表尾(八・四)大倉(九・〇)

済次部出合(〇・三・〇)下(ニ・〇)金冷し段出合

(三・五・〇)ニ・三(三)綾織(三・四五)塔岳(四・〇・〇)四・五

大倉(セ・五)表尾(セ・四・〇)セ・五(セ・五)横浜(九・一五)

最初の計画では丹沢表尾根縦走の予定であつ

たが打合せで表尾根では時間的にきついため

途中で下山するめになりかねないので最短

距離の水無本谷に変更した。表尾根の駅に降り

ると季節はづれのせいか夏の最盛期に比べ、

うその様に登山者は少く大倉に着くとほとん

どがバカラ尾根に向ひ次に下つたのは我々のパ
ルティーと単独行の者のみであった。私は

静かな林道をのんびりと本谷に向った。やがて二条に落下するF.I.(10m)が現われ全員無事に直登した。例の直登で自信をつけたせいかF.I.までの歩調とはみちかえるほどのハイペースで次から次へと快調に滝を登り、それまで曇っていた空も時々晴間が見えるようになつた。金陵の沢出合で腰こしうえをして本谷最大の20mの大滝に向つた。今年はさらに左壁の岩前れが烈しく昨年とは様子が変つていた。この大滝は左壁のレンゼを登り落口におりた。落口はさすがに高さを感じがあり三ノ塔、大倉尾根の眺めはずばらしい。さうにニ俣から右に入り涸れ滝を越えるとガレ場となる。綾線もまじかで残雪や霧氷が現われ霧氷は枯木に美しい花を咲かせ我々を楽しませてくれた。綾線から霧氷のトンネルをくぐつて十五分位で塔、岳の頂上に立つた。帰りは大倉尾根をのんびり下つた。

行事 報 告

1月11日

1月24日

例会・新年会 出席者 11名
オ一回支部山行兼オ一回丹沢シリーズ
丹沢水無川本谷 参加五名

1月27日

準例会 小町

1月28日

委員会 出席者 7名

2月6・8日

オ一〇二回支部山行志賀高原スキーリー

行 事 予 定

2月9日

例会 18時 婦人会館

2月24日

準例会 19時 小町

2月28日

オ二回丹沢シリーズ 鷹取山

3月9日

例会 18時 婦人会館

3月14日

オ二三回支部山行兼オ三回丹沢

3月24日

シリーズ モミン沢

3月24日

準例会 19時 小町

例会
3月9日(火)
18時より
婦人会館

準例会
2月24日(水)
19時より
小町

昭和40年3月9日
月3支(小川利方)
横井俊明
SHC 編集者
3年後浅井俊明

第3回丹沢シリーズ

オーロ四回支部山行

兼オーロ三回支部山行

全支部集中登山

3月14日

4月4日

毛ミソ沢

丹沢塔ヶ岳

係 熊谷幹夫

係 水野邦保

集合 相鉄改札口

打合也 4月1日(木)

午前7時半

小町にて 18時30分

(時間厳守)、コース

大秦野(葛葉川)

三の塔(塔ヶ岳)

行事報告

先月、全会員に往復ハガキを送り役員改

2月28日 オニコ丹沢シリオバ

荒崎シーサイドハイツ
参加 4名

選の投票をお願いしたところ、次の結果となりましたので報告します。なお、

三月例会にて正式に役員が決まる予定で

す。

〔代表〕

〔役員〕

行事予定

3月9日 例会

3月14日

オニコ丹沢シリオズ兼オーニ

回支部山行

ミニタ

3月24日

準例会 小町19時

4月1日

オニコ丹沢シリオズ兼オーニ

4月4日

丹沢塔ヶ岳

4月13日

例会

18時

婦人会館

19時

準例会

3月24日

19時 小町

小川 小影山 山山 荒山 何山

落合

111158

佐佐木 鈴影 高水 茅藤 熊谷 小川 関野 中山 何山 浅井

佐藤 次木

山山 野藤 藤

落合

1 2 3 4 4 4 6 6 6 7 8 9 10 12

昭和40年4月13日発行
S H C 横浜支部(影山方)

スコロス 69号

本年度方針決る。

【代表】影山元芳
【会計】高山美恵子
【庶務】熊谷幹夫

鈴木国之
奥野昌

去る三月三十日、臨時総会を開き協議の結果次のように決定致しました。

今後はこれらの中線に沿つて支部を運営することになりました。決済気味で、た支部を活氣あるものにするために会員各位の御協力をお願い致します。

尚、総会に於て決議された事項は次の通りである。

一、山行係は廃止する。

年二、三回行う合宿は委員が主になつて行う、それ以外の山行は毎月一回会員二名以上が係になつてプランを提出し、実施する、これにより会員は年一回必ず山行係を受持に於て協議の末締上げが予定されました。しかし、その後、或井、金子(ス両氏)が辞退を申しだされましたので、結局、次のメンバーになりました。

六、会員は年額十円とする。

テント購入費未払分一万六千円をできるだけ早く完納する、備品を充実させることにより本年度は運営されることになりました。

三、会友制度を廃止する。

現在の状態で会員との違いは会員の額だけのようなので、集会、山行の出席率は規制せず会員と同一とする。

四、本部とつながりの有無。

総会の席上の多数決によれば全員が本部とのつながりが必要であると認めました。つながらりを持」とすると雑誌を十名以上購読しなければならぬし、総会に於ては全員が贈読することに決まりました。しかし、一部にはこれに対する多少不満の意見もある、季貢としてはこれらの意見を無視できないので雑誌の購読方法については集会にて再検討したい。

五、本年度前期山行

オーロ五日山行 五月一日～四日

奥横父縦走 (2) 熊谷、(2) 影山

オーロ六日山行 五月二十九～三十日

志賀高原地巡り (2) 佐藤、(2) 斎藤

オーロ七日山行 六月

八日笠山 (2) 金子 (2) (2) 奥野

オーロ八日山行 七月

丹沢キヤンフ、

オーロ九日山行 八月

安達太良山 (2) 高山

オーロ十日山行 九月

お月見山行 (2) 小川

オーロ十一日山行

笠ノ登山 (2) 中山、(2) 佐次

オ四日圓山次シリーズ 六月上旬(夜行日帰リ)

谷川沢見物 (2) 熊谷、

廿一〇五回 支部山行

興秩父縦走(五月一日～四日)

コース 菊崎→増富鉱泉水→金峰山

↓国師→甲武信→雁坂峠

↓笠取→雲取山→鶴沢

↓水川

天幕縦走とし、最終目的地に達せない
と判断した場合は途中で下山する。

費用 約二千五百円

打合せ 四月二十七日(火)

小町にて 十八時三十分

係 影山、熊谷

支部山行報告

オーロ三回支部山行兼オ三四丹沢シリーズ

丹沢モミリ沢(三月十四日)

参加者 熊谷(総)、奥野、鈴木

コースタイム 横浜(七時)深沢(八時五分)ハ

五〇)大倉(九、〇〇十九、一〇)モミソ沢出合(一〇、

一五、一〇、二五)大棚(一一、〇〇九一、三、〇〇)モミソ出

倉(一三、二〇、一四、三〇)大倉(一五、三五、一五、四〇)モミ

(一五、五五、一六、〇五)横浜(一七、一五)

深沢駅に降りるとバスが停車していたので

とび乗るとすぐ発車、車内は満員であった、

大倉で身仕度をして林道を行く、道は工事
中で大介ゴロゴロしていった、大倉まで一
時前後モミソ会合に着く、ここで一休みし
ていよいよ家に入る、大構きで快調なピツチ
で登る、大構で持ってきたザイルを取り出
し懸垂下降の練習をする。

この大構は12本あり、上部一歩かいくらか
ハングしており、微妙なバランスが必要だ
つた、昼食をして、汗を下り、覺醒岩で岩
の感触を楽しんでのんびりと帰る。

「委員会だより」

「クラブのあり方にについて

我々は会のあり方について、少し考えてるのである。

見る必要があると思う、去る32年に發足し、以来8年間着実に歩んで来たと想うが、二、三年は余りかんばしい様子ではない、そこで我々会員一人一人が会に対する考え方、あり方を今一度考えて、こうありたい、あるべきであると云うことと述べる必要があると想う。

山は仰人でも登れるがそれには限界がある、そして、パートナーを求め、やがて発展して会と云うものができるもので、それを作成するメンバーは皆それぞれに取業、地位、年令が違ひ生活環境も異つてゐる、しかし会に所属すると云うことにより程度の差こそあれ束縛をうけるも

会のあり方、運営について或る本に述べてあつたものかう一部を抜書きしてみた。

山が好きだから会員になれる、入会金と会費を払、たから道具が借りられて、手とり足とり教えてくれると考えたり大きくな間違いである。登山の好きな者が集つてお互いの力を結集して効果的な登山をするのが現在の山岳会であり、会員仰々は相互に信頼をもつて結ばれていのだから先輩は特に新人を教える義務はない、教えてくれることだけを覚えるような消極的な態度では登山者として大成しない。

会員になつたと云ふことは他人から頼まれ

てすることではなく、やむにやきれぬ自發的
な意志表示が入会と云うことになつたので
ある。例え小なりとも組織化された構構が
あり、会員に対する規則もある山岳会は島
合の眾でない、会員全部が勝手な方向を向
いていっては会は成立しない。

純粹なスポーツと考える人、レクリエーション
、交際の場として入ってくる者、なんとな
く入ってくる者と種々様々である、スポーツ
アルビニズムを看板にかけてもそんなもの
がどうしてもいるものである。一、二年に
自然に会の空氣になれるにしたがつてそれ
は本人がさとるべき問題である。

一つの会を育て、いこうとすれば会務の指

導ど云うことも考へなければならぬ、人
材がないと嘆くのは自分達の怠慢を認め
るようなものであり、委員はとかく会の雑
用処理係になりやすいのは各委員が目先の

ことに追いまわされて企画性をもとあとし
ないからである。委員は少くとも自分の任
期中に立つの目標を定めてそれをやりとげ
るだけの積極性をもつべきである、このた
めにもやはり任期は2年が適当である、任
期が終つたらできる範囲内で新しい人と交
代した方がよく現役から退いた人たちに自
分たちの会の運営をまかすべきでない。

個人に行動の自由がある以上、全般的に
個人山行を禁止するわけにはいかないが、
登山と云うものは常にある程度の危険性が
あるものだから、許可制ぐらいにすること
は必要である。

集会で一番問題になるのは定刻までに集
まらないものが多く、いつも開会がおくれ
ることである。理由なく遅れた会員は干

ツクし、会報にのせたり適当な方法で発表したりすれば少しは効き目がある。集会の進め方は、会務報告、山行報告、体験、山行計画が順当である。

会報作りで一番大切なことは、会報はあくまでも自分たちのためのものであることを意識することである。意外的反対を意識しないこと。しかし、いくら自分たちのものだとえつても、いつ誰がどこに行つたかわからぬいような報告とも、紀行ともつかないものでは困るし、会の内部でしか通用しないえ葉が出てくるのは困る。

A・韓觀派

山を愛で山を語り山鑑めぐりに終始し、入会退会は比較的自由、きわめて和やかな雰囲気に満ちているが、特に登山さしくてもよく、山が言論の中心となる社会場とでも云うべきか。

B・行動派

例え社名の運営委員がいてもやはり、全員が音で行くべきである。全員の協力なしではなにごとも成功しない。

(1) ハイキングを行なうから本がしい登山用具はいらない。一つの行程に一日か二日程度が多く、入退会も割合自由。

山岳会——登山团体——とは一体何か、この山岳会ほど多種多様なものはない。

それらの内容は次の五つに大別されると思う。我々の会は次のどれに当るであろうか。そして各人個々の様なものぞ望むか、考えてみよう。

背負つて歩く、まる者は追わすという徳川取締の遺訓を地で行くから入会しても脱落者が出来やすい、入会は(1)より厳重になる。

(3) 次歩きを重視的に行うグループで岩登りの不得手なんには向かない、会によつては岩壁登攀に転向することもある、会員としての規範も(2)と同様にあり入退会も厳重となる。

(4) 岩壁登攀を員名通じて実施するという目標をもち海外登山を蔑視粗々と狙つているグループア、入会させてもうつても数年後には一割くらいしか残らない、つねに強化訓練と本番に備え暮れするもので、よほどの信念がないと正会員になれない。

と云うように同じ山岳会という名前を使つていても行動内容は半差万別である、中に

はハイキングから岩登りまでを網羅した山岳会もあるが多くは單一の登山方式をとる場合がほとんどである、――――――
我々のクラブは新ハイキングを通りて知り合つた人々の集りである、それ故本部とのつながりはある程度は持つて行きたい、しかし、ハイキングの会だからといってそれがだけに満足することなく一步前進して考え方で推進しても差支えないとこ、う、登山に対しても人、夫々好みがあり、スタートはハイキングであつて古来オノ高千山に登りたい人、又、終始ハイキングで満足する人と様々である、しかし、全会員が同一条件で満足できれば尚可なりが、一部にでも好みが違う人が居ればこれをおもひた目的を決める必要があると思う、
そこぞ本期の委員の考え方として――――――

締として次の目標を打ちて今後の支部の指
針としたい。クラブの充実的發展は最低5
年はかかると思ふが、大きな山岳会的要素を
とり入れる考えは毛頭ない、しかし、やは
りハイキングだけの会より一步進んだワン
グローバル的要素を含んだ会として進く
方がより効果的であると考える。

ハイキングはもとより初步の雪山までの

山行を対象としたい。

二、個人山行は山岳会でないので許可制には

しないが届出制にする必要があると思う。

二、クラブの俗名について、

「新ハイキングクラブ横浜支部」という名前で
もよいが、気分を新らたに育ると云うこと
で俗名をつけた方が良いと思う。

三、雑誌の購読方法

我々委員は引継ぎ時間がなく、目下再建
案の検討等で委員会を毎週行っている現状
であり、相当多忙をきわめているので、本
は各委員の方に申し訳なく思います、これ
らの労力はクラブ發展のためとは云々無視
できない貴重なものであることを全会員が
充分考慮し、月一回の集会には必ず出席よ
ろしくお心掛けて欲しい。

(40-4-10 影山)

以上これは一つの本案であるので全会員
が夫々熟考され、会の發展とも加味する様、
集会で検討を加えて行きたい、尚、今年度
は支部再建の準備期間として種々集会で検
討されることが必要と思うが御協力方願い
たい。

我々委員は引継ぎ時間がなく、目下再建
案の検討等で委員会を毎週行っている現状
であり、相当多忙をきわめているので、本
は各委員の方に申し訳なく思います、これ
らの労力はクラブ發展のためとは云々無視
できない貴重なものであることを全会員が
充分考慮し、月一回の集会には必ず出席よ
ろしくお心掛けて欲しい。

限であれば支部として認められるため、これをうまく利用したり、毎月本が必要とする人も居り、必要としない人も居る、これらをどう処理するかが問題である。

毎月本が必要あると云う人は個人で手続をする、確認のために個人で手手続きをした人は本部からの会員証を提示する(粗し、手続きの面倒な人は会で帳でもよい)、その他的人は誌代として半年分を会員に納入して隔月に本を受取る。

四、集会曜日の検討

現在毎月第2火曜日に集会を行なつてゐるが、火曜日が都合悪いという人も中には居ると思われる、そこで曜日の検討をしたい。

五、準例会について

毎月オホ水曜日に行われている準例会は現在では余り活用されていない、この状態では無用な長物である、会を充実させるため

の集りであるので、無くすわけにはいかない、そこで集会に出席できない人のために曜日を変えて支部出行の反省及び集会の話等を行う。

六、集会のあり方

過去色々と話題になつてゐるが今後は計画的に進めて行き度い、それについては会員の希望等に沿つて行くようにならいため種々申出で歓しい。

七、山行資料の充実

山行に基礎的データを集会でも討議できるような資料を作る、例之ば技術的なスライド、高山植物のスライド等。



Kuroyuri

会計報告

39年10月～40年3月

〔收入〕

前期繰越	4534.-
支部会費	3000.-
	<hr/>
	7534.-

〔支出〕

会場費	2760.-
連絡費	380.-
	<hr/>
	3140.-

〔残高〕

4394 円

上記の通り相違ありません

<会計係>

行 章 報 告

3月9日	集会 婦人会館 出席者12名
3月13日	委員会 全委員
3月14日	や103回支部山行 参加3名
3月30日	臨時総会 出席16名
4月4日	本部集中(春日岳) 参加2名
4月7日	春季会 全委員

行 章 平 定

4月27日	や防回山行打合せ 18時30分小町
5月11日	集会 18時 婦人会館
5月11日～4日	支部山行 奥秩父縦走

